

# 秋の叙勲

## 重ねた努力と永年の功績が認められ

2007年秋の叙勲で、市内から中澤弘さん（登米町鉄西）、布施孝之さん（迫町一市）が旭日双光章、三浦亨さん（米山町町吉田）が瑞宝双光章を受章しました。

旭日双光章  
布施孝之さん（迫町・73歳）



昭和55年から17年間、宮城県歯科医師会登米郡歯科医師会長を務め、地域医療の発展に尽力。昭和38年から学校歯科校医を務め、現在も宮城県佐沼高等学校、登米市立佐沼小学校の歯科校医として、児童生徒の健康に多大な貢献を果たしています。

旭日双光章  
中澤弘さん（登米町・72歳）



昭和33年、東和町立鱒淵小学校校助教諭として奉職。昭和36年から平成2年まで、宮城県米谷工業高等学校教諭として尽力しました。平成2年3月、登米町長に当選。平成17年まで4期15年にわたり、地方自治の振興・発展に貢献を果たしました。

瑞宝双光章  
三浦亨さん（米山町・77歳）



昭和24年、吉田村立桜岡小学校校助教諭として奉職。昭和61年に河南町立和洞小学校長、昭和63年に米山町立桜岡小学校長。平成5年から市町村合併まで3期11年間米山町教育長を務め、学校・幼児・社会教育・社会体育の振興に尽力されました。

### 40～74歳の皆さんへ

## 基本健康診査が『特定健康診査』に変わります

医療制度の改革により、40～74歳の人々の「基本健康診査」がメタボリックシンドローム（※）とその予備群を見つければ生活習慣病を予防する「特定健康診査」になります。また、実施主体は「医療保険者」に変わります。

### □「特定健診」はメタボリックシンドロームを早めに見つけ予防する健診です

厚生労働省の「平成17年度国民健康・栄養調査」をみると、40～74歳の男性の2人に1人、女性の5人に1人がメタボリックシンドロームの該当者か予備群と推定されます。登米市でも、19年度基本健康診査受診者の状況をみると、50歳代以上の3割が肥満、中性脂肪が40～60歳代の2割、血圧が50歳代4割、60歳代5割、血糖（ヘモグロビンA1c）が40歳代2割、50歳代3割、60歳代4割の人がメタボリックの基準値以上になっています【表1】。「肥満」「脂質異常」「高血糖」「高血圧」の一つ一つの程度が軽くても、危険因子の数が多くなるほど糖尿病や心臓病、脳血管疾患などの生活習慣病の発生する危険が高くなります。例えば危険因子がない人に比べ、4つの危険因子を持っている人は、心臓病の危険度が約36倍にもなります【図1】。このことから、メタボリックシンドロームの該当者・予備群を見つけて出す特定健診になったのです。

（※）メタボリックシンドローム  
メタボリックシンドロームとは、内臓脂肪型肥満で、さらに高血圧・高血糖・高脂血症のうち2つ以上が該当する場合をいいます。高血圧、高血糖、高脂血症の一つ一つは軽くても、内臓脂肪型肥満と重なると動脈硬化になるリスクが急激に増すことから、メタボリックシンドロームと名付けられています。

表1 平成19年度登米市基本健康診査における有所見率

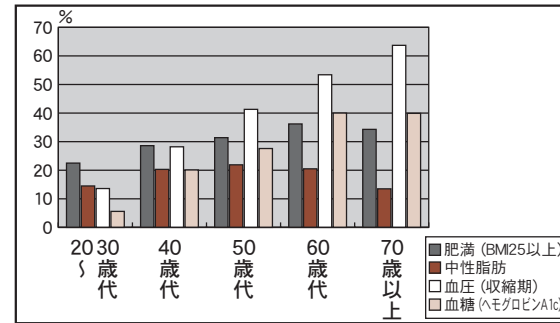
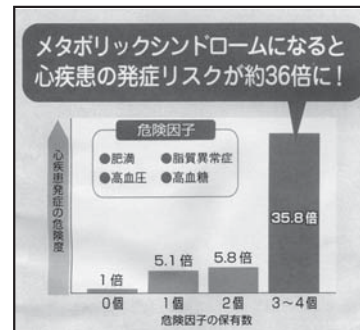


図1 メタボリックシンドロームによる心疾患の発症リスク



【問い合わせ】  
市民生活部健康推進課  
☎ 0220 (58) 2116

### □特定健診の対象者は「40歳～74歳」のすべての人

特定健診の対象者は、医療保険（国民健康保険、健康保険組合、共済保険など）に加入している40～74歳の人です。被保険者だけではなく、配偶者や父母などの被扶養者の人も対象です。

### □実施主体は「市」から「医療保険者」に

これまで市で受診していた人も、20年度以降は国民健康保険や健康保険組合などの医療保険者が実施主体になります。

### □特定健診のお知らせは医療保険者から

国民健康保険に加入している人は、40～74歳の人全員に受診票が配布され総合検診で受けることになります。国民健康保険以外の医療保険の人は、医療保険者からお知らせや受診券などが送られます（詳しくは事業主に問い合わせてください）。

### □メタボリックシンドロームの予防・解消のための保健指導に重点を置いた制度です

健診の結果によって3段階に分けられ、メタボリックシンドローム該当者・予備群の人に保健師、管理栄養士などの専門スタッフからサポートを受けながら、生活習慣の改善に取り組むことができます。

### □特定健康診査以外の市の検診は従来どおり実施します

「健康診査（従来の「基本健康診査」）」は、特定健診以外の「20～39歳の人」「75歳以上の人」を対象とします。「結核・肺がん検診」や「がん検診」などは、従来どおりの方法で行います。詳しくは、「平成20年度登米市各種検診申込書」と一緒に配布されるお知らせをご覧ください（申込書の配布時期は平成20年1～4月ですが、各総合支所によって期間が違います）。

## 何気ない日常の情景を詩に 白秋献詩で千葉君(中津山小5年)が「文部科学大臣賞」の快挙

平成19年度白秋献詩（福岡県柳川市ほか主催・応募総数9,185点）において、千葉颯一郎君（中津山小5年）が、小・中学校、高校、一般の部を合わせた最高賞の文部科学大臣賞に輝きました。受賞した作品は「おばあさん達のお茶飲み」。日常のおばあさんたちのお茶飲み風景を、生き生きと表現したことなどが評価されての受賞となりました。表彰式は11月2日、福岡県柳川市で白秋祭式典において行われ、颯一郎君が入賞者の代表で詩を朗読。また、6日には市役所迫庁舎を訪れ、布施市長に受賞の報告をしました。颯一郎君は「夏休みにおばあさんの家に遊びに行ったことを書きました。文章作りは得意ではありませんが、今後もたくさん書きたいです」と話していました。



文部科学大臣賞を受賞した颯一郎君



布施市長に表敬訪問し受賞作品を朗読

『おばあさん達のお茶飲み』  
おばあさん達の話は止まらない、自分達の子どものころのこと、足が早かったとか、英語の発音でほめられたとか、おかつは頭でかwijkかったとか、ほんとかな。  
かと思つて、  
天気のこと、  
最近のニュースのこと、  
料理の自まつ話、  
しゃべること食べることで、  
口が動きつぱなし、  
おたが負けず言い合っている、  
ほくはちよと、いや、かなり、  
その様子をあきれて見ていた、  
「おた、年取るとたぬ、  
トイレに行くと両手をついて、  
立ち上がるまで時間がかる、  
あきれて見ていたほくな、  
おばあさん達といつしよに大はく、  
つられて、  
おばあさん達の話の中に入つちやつた、  
ダイエツトのこと、  
秋のマツソ大会のこと、  
将来の夢のこと、  
話があつちよちに飛んでいく、  
意味なんてないみだ、  
つかれたな、  
朝からお昼まで続くんだもの、  
仕事はまた、別のおばあさんのおはくくり返す、  
仕事から帰つたおばあさんにおはく返す、  
お茶飲みのこと話してあげた、  
「いじやない、それでおばあさん達が元気なら、つて言つたけど、  
いじよにほくのお気持ちも分かつてよ、  
次の日の朝も仕事に行くおばあさんに、  
行つてらっしゃい、」を言つてから、  
おばあさんの家に行つた、  
ちよつとイヤな予感がした、  
おばあさんに近づくと話し声が聞こえてきた、  
お茶飲みがもう始まつている。